



ロータリー アットワーク

ROTARY 写真編
AT WORK

インドから102人の ビジターがやってきた

東京中央新ロータリークラブ
第2750地区 東京都

8月19日、東京中央新RCの例会場・帝国ホテルは、色鮮やかなサリーや白い民族衣装のインドの方々で大にぎわい。旅行で来日中の第3232地区（チェンナイ）のロータリアン一行102人が、例会に訪れたのです。数カ月前、L・ニラカントン地区国際奉仕委員長が、グローバル補助金事業で縁のできた名古屋清須RCの三輪隆裕さんに滞在中の例会受け入れクラブを打診。広い例会場が借りられ、日程が合う同RCに白羽の矢が立ったのです。

創立18年目、会員61人の同RCが、これほど大人数のゲストを迎えるのはもちろん初めて。1カ月という短期間で準備を重ね、当日を迎えました。11時からの顔合わせでは、着物姿の会員が交代で、英語でクラブを紹介。「ティーンエージャーのクラブ。80%が女性会員です」には拍手が起き、福元智子会長とのバナー交換は実に41クラブに。大会場に移動しての例会には189人が出席。両国の会員が交ざるよう配慮された席で、よくだけた雰囲気、情報交換や写真撮影の輪ができました。ガバナーのC・チャンドラモハンさんは「国や年齢ジェンダーなど関係ないのがロータリー」「日本の友達、南インドで待っています」と呼び掛けました。

「国内外のロータリアンが集まることで、何か別のことが生まれるきっかけ、つながりができればうれしいです」（福元会長）、「引き受けたことは、クラブの団結に役立ったと思います」（清宮普美代幹事）。チャレンジ精神で海外からの団体ゲストを受け入れた同クラブ、今後はインドとの奉仕のつながりも広がっていくことでしょう。

（取材：『友』編集部 山名愛）